

中山間地域における住環境整備に係わる基礎調査

正会員 ○五十嵐由利子*1 同 福留 邦洋*2
同 原田 裕子*3 同 若月 綾子*4

中山間地域	住環境	高齢者
雪処理	バリアフリー	

1.はじめに

中山間地域^{注1)}は日本の国土の69%を占め、総人口の14%が生活をしている。新潟県においては県土の73%、森林面積の84%、耕地面積の39%を占めており、県全体の26%の人々が暮らしている。一方、新潟県の高齢化率は23.9%と高く、特に中山間地域では40%を超えていたところもあり、高齢化が問題となっている。また、新潟県における中山間地域の多くは豪雪地帯のため、表1に示すように、平成9年から平成11年までの雪害事故による死傷者数は197人で年平均60人を超えており、また、特に高齢者の割合が50%以上と高い。この状況から、除雪や雪おろしの労力も大きな負担となっていることが示唆される。

2004年10月の中越地震において、新潟県の中山間地域での被害が甚大であり、高齢者の多い地域での住環境整備が大きな課題となっている。以上のように、中山間地域での居住には大きな課題があるが、自然環境や国土の保全、良好な景観の形成、文化の伝承、そして近年注目されている保健林養成(グリーンツーリズム)などの多面的機能を中山間地域は有している。そこで、現在、中山間地域に居住している住戸を対象に住環境の現状を捉え、これからの中間地域における住環境整備のための基礎資料を得ることを本研究の目的とした。

2.調査方法

新潟県において、特に積雪量の多い中山間地域の集落を対象に、居住継続の可能性をも視座し、交通の利便性に劣り、幹線道路に面していないところを選定し自治体に依頼した。その結果、図1、表2に示した3集落を対象に、2006年11月にヒアリング調査を行った。なお、3集落のうち、X・Y集落はそれぞれ7戸で構成されており、全住戸を対象に、Z集落については19戸中7戸を対象とした。ヒアリング調査の主な内容を表3に示した。

3.結果及び考察

1) 3集落の生活環境

いずれの集落も近くの幹線道路を路線バスと福祉バスが運行しているが、本数が非常に少ない。自家用車で買い物や通院をしている人が多く、また、近くに住んでいる子供に買い物を依頼するケースもあった。近くに店舗がないため移動販売を利用する人も見られた。

表1 雪害事故の年齢別死傷者数
(H9年度～H11年度)

年齢	死傷者数(人)	%
20歳未満	3	1.5
21～40歳	14	7.1
41～60歳	73	37.1
61～80歳	95	48.2
81歳以上	12	6.1
合計	197	100



図1 対象集落の位置

表2 対象集落の地域特性

	津南町 X集落、Y集落	上越市吉川区 Z集落
積雪深 (H17年までの2月平均)	261cm 〔H18年2月には416cmで日本一を記録〕	129cm
交通	近距離に高速道路 ICはない	高速道路ICがある

表3 ヒアリング調査の主な内容

	質問項目
住宅について	住宅の雪害タイプ、除雪方法、住宅内の温冷感、暖房の様子、バリアフリー
日常生活について	人の交流(集落内付き合い、子ども、親戚との付き合い等)、外出(通院、買い物、移動手段等)、社会サービス(保護・医療・福祉サービス、施設の利用等)
評価について	生活の満足度

3集落ともに、ほぼ全体がお茶のみ、おそらく分けをしており、日常的に交流がなされている。また、高齢者の多い集落であることから、集落全体からサポートされている人もいるなど、地域の絆は強いことが分かった。

2) 対象住戸の概要(表4)

家族構成は夫婦のみ、独居が11戸であった。農業を営む人が多く、また、家族を含めて公務員もみられる。住宅の築年数は20年以上が多く、3集落を比較すると、Y集落は築年数が経っていない住宅が多く、X集落、Z集落は築年数が経っている住宅が多かった。またZ集落は100年を超える住宅

が2戸(Z2:100年程度、Z6:約200年)あった。

3) 雪処理について(図2)

X集落とY集落は同じ町の中の少し離れた集落であるが、屋根雪処理の方法等に違いが見られ、X集落では、家族が主体の人力で、屋根の雪下ろし、敷地内の除雪をやっている住戸が多い。また、Y集落で敷地内除雪をしないという住戸があったが、それは融雪池や消雪パイプの水を利用していた。Z集落は、X・Y集落より積雪量が少ないためか全住戸が落雪式であり、落雪後の雪処理が必要となるが、敷地内除雪に重機等を利用し、人的負担を軽減していた。

以上のように3集落で雪処理の方法は異なるが、X集落のように人力に大きく依存しているような地域にあっては、ハードとソフトの両面において行政等の支援が必要となってくると思われる。

4) バリアフリーの視点からの住宅の安全性

建築年数の長い住戸が多いことから、バリアフリーの状況を手すりの設置状況でみると、全体の21戸中、設置されている住戸は、階段が11戸、トイレが5戸、浴室が4戸であった。高齢者居住の住戸が多いことから、事故防止のため、専門家による助言や支援が必要と考える。

また、高齢者にとって住宅内の温度差もひとつのバリアと考えられる。居間の暖房方法は3集落とも石油ストーブとコタツの併用が多くなったが、居間の暖まりやすさについて「暖まりやすい」と回答した住戸は全体でほぼ半数の12戸であった。また、他の空間での暖房は少なく、特に、脱衣室での暖房は6戸のみであった。

4. おわりに

上述したように、交通の利便性、雪処理の課題、バリアフリーの課題が明らかとなつたが、集落によって若干異なる状況も見られた。しかし、その地域での居住継続の意向を持っている居住者が多く、近隣関係の絆が強く、生活の満足度もかなり高かった。

謝辞

本研究を行うにあたり、調査にご協力賜りました3集落の住宅の皆様に深く感謝申し上げます。また、本調査実施にご協力いただいた新潟大学復興科学センター田村圭子准教授、ト部厚志准教授、卒業生の佐藤瞬さんに謝意を表します。

注)「山村振興法」「過疎地域活性化特別措置法」「離島振興法」「特定農山村法」のいずれかに指定された市町村及び、山林が面積の半分以上を占め、田畠が傾斜地に多い、中間農業地帯、山間農業地域に指定された市町村

表4 対象住戸の概要

調査対象者	性別	年齢	家族構成(人数)	世帯構成	仕事の種類	住宅の築年数
X1	女性	58	本人、夫、娘2人(4人)	2世代同居	農業、農家民宿	17年
X2	男性	55	本人、母親(2人)	2世代同居	アルバイト(以前は建設業)	40年
X3	男性	64	本人、妻(2人)	夫婦のみ	会社経営(農作物加工)	60年
X4	女性	80	本人、夫、息子(3人)	2世代同居	酪農	50年位
X5	女性	99	本人(1人)	独居	(農業)	40年
X6	男性	72	本人(1人)	独居	農業(畑、田んぼ…米の出荷)、シルバー人材組合、森林組合は70歳を過ぎてやめた	30年
X7	女性	70	本人、夫(2人)	夫婦のみ	(農業)(娘に手伝ってもらう)	27年
Y1	男性	78	本人、妻(2人)	夫婦のみ	民生委員、以前は役場で勤めていた。	31年
Y2	女性	53	本人、(夫は単身赴任中)	独居	製造業、朝刊配り(集落のみ)	28年
Y3	女性	75	本人、夫、子ども(3人)	2世代同居	家事	40年
Y4	男性	65	本人、母親、息子夫婦、孫2人(6人)	3世代同居	以前は農業、書道教室	2年
Y5	女性	75	本人、夫(2人)	夫婦のみ	以前は十日町で機織をしていた	26年
Y6	男性	85	本人、妻、子ども夫婦(4人)	2世代同居	農業、息子:役場、息子の妻:さのこ工場	29年
Y7	男性	85	本人、夫(2人)	夫婦のみ	農業(昔は丸通)	30年
Z1	男性	65	本人、妻、母親(3人)	2世代同居	役場職員	36年
Z2	男性	75	本人、妻(2人)	夫婦のみ	農業	100年程度
Z3	女性	83	本人、息子、娘、孫2人(5人)	3世代同居	(農業)、家事	23年
Z4	男性	81	本人、妻(2人)	夫婦のみ	板金屋、新聞配達(集落内)	56年
Z5	男性	66	本人、妻、母親(3人)	2世代同居	58歳まで郵便局員、現在は半金生活	41年
Z6	男性	51	本人、父、妻、小息子(4人)	3世代同居	寺住職(善立寺真宗大谷派)	約200年
Z7	男性	83	本人(1人)	独居	昔は郵便局長	71年

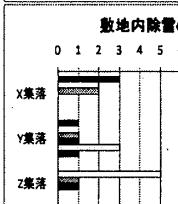
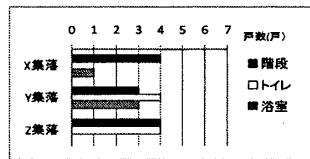
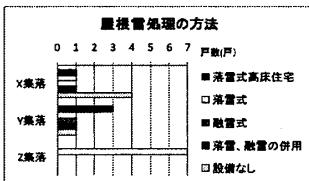


図2 雪処理について

*1 Prof., Faculty of Edu.& Human Sci., Niigata Univ., M.Home Ec.

*2 Assoc. Prof., Research Center for N.H.D.R., Niigata Univ., Dr. Eng.

*3 Design Corporation Co.,Ltd. *4 Sekisui House Ltd.

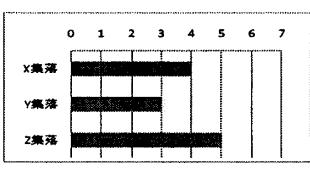


図5 居間以外での暖房の有無(全住戸)